

平成30年度決算の概況

(1) 総括事項

平成30年度においては、平成28年3月に策定した「岡山市下水道事業経営計画2016」に基づき、下水道事業の持続的な運営を図りながら、市民の生活環境や水環境の改善を図り、快適で安全なまちづくりに貢献しました。

特に浸水対策については、平成30年4月より、事業者に対して開発行為等に伴う雨水流出抑制施設設置に対する助成を拡充するなど市民、事業者と連携した総合的な浸水対策を進めています。また、平成30年7月豪雨による浸水被害を踏まえ、浸水対策の基本方針である岡山市浸水対策基本計画、岡山市浸水対策行動計画の見直しも行いました。

今後は、浸水被害の大きかった地区への重点的な浸水対策に取り組むとともに、未普及対策や耐震・長寿命化対策などについても「岡山市下水道事業経営計画2016」に基づき、引き続き効率的、計画的に実施します。

ア 下水道による汚水処理の状況

事 項	平成30年度	平成29年度	増 減	対前年度比 (%)
処理区域内人口 (人)	483,830	479,957	3,873	100.8%
汚水処理戸数 (戸)	158,393	155,559	2,834	101.8%
年間有収水量 (千 m^3)	52,579	52,408	171	100.3%
普及率 (%) ※1	67.4	66.8	0.6	—

※1 以外は農業集落排水事業を含む。

イ 建設改良事業

a 浸水対策

浸水被害の軽減を図るため、浦安排水区等の雨水渠整備に継続的に取り組みました。また、平成30年7月豪雨により、甚大な被害のあった今保排水区のポンプ場整備の早期完成のため、平成30年度はポンプ場の基本設計を前倒して実施し、令和4年の完成を目指すこととしています。

b 未普及対策

庭瀬・妹尾・撫川・久米・横井上・檜津地区など旭川以西の児島湖流域下水道関連処理区などの整備や、江並・今在家・東平島・神下・乙多見・西大寺射越地区など旭川以東の岡東及び吉井川処理区などの整備に取り組みました。また、高松・吉備津・牟佐の新規地区の事業に着手しました。

c 耐震化・長寿命化対策

国の長寿命化支援制度を活用した岡東浄化センター、旭西排水センター及び笹ヶ瀬ポンプ場などの改築更新に取り組みました。

また、老朽化した管きよの更生工事、重要な幹線管きよの耐震診断及び耐震化工事を取

り組みました。

ウ 維持管理

本年度は約6,013万 m^3 の汚水を処理するとともに、市街地の雨水を排除しました。処理場やポンプ場においては日常の管理の中でコストを意識した運転を行うとともに、点検や整備、修繕を計画的に行いました。また、管きょについても計画的に点検調査を行うとともに、清掃や修繕を行いました。

エ その他の取り組み

平成31年1月に大規模地震・津波を想定した下水道BCP訓練を実施し、災害支援協定団体との連絡体制の確認、被災施設の調査訓練を行いました。

また、下水道のPR活動として、「魅力・信頼・サービス向上推進班」において、市内にあるご当地マンホールを探しながらスタンプを集める「マンホールスタンプラリー」を初めて行いました。また、「広報戦略推進班」において桃太郎マンホールを題材にした無料通信アプリのオリジナルスタンプを作成しました。

オ 財政状況

本年度の財政状況については、収益的収支では、事業収益19,397,719千円に対し、事業費用19,397,719千円で、この結果、収支差引0円となりました。

次に、資本的収支では、収入額18,733,509千円から翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額332,779千円を除くと、当年度の収入が18,400,730千円、これに対する支出額は25,101,853千円であり、収支差引6,701,123千円の不足額は、内部留保資金などで補てんしました。

以下のグラフは下水道事業の決算状況を性質別に示したものです。

